③炎のタックル（明治 VS 慶應戦）

2020 年 11 月 02 日

11 月の最初の日曜日は、例年好ゲームが組まれてきました。今週も明治大学 vs 慶應義塾大学、早稲田大学 vs 帝京大学の２試合が秩父宮ラグビー場で試合を行いました。

そもそも「対抗戦グループ」は、創部が古い伝統校が「定期戦」を開催することがベースとなり、試合日程が組まれたことによるものだそうです。前回お知らせした「関東大学リーグ戦」は伝統校に比べて創部が新しい大学チームによって構成されているそうです。

今では、日本全国の大学ラグビーの頂点を決めるために対抗戦やリーグ戦の上位チームが大学選手権で凌ぎを削る戦いが 12 月から翌 1 月にかけて熱戦が繰り広げられます。日本大学もこの調子でゆけば、昨年度同様この大学選手権に出場することとなるでしょう。

さて、本日はその中で「対抗戦グループ」の上位常連の明治大学 vs 慶應義塾大学の試合についてお話をしたい、と思います。試合の結果からお知らせすると、慶應 vs 明治 13－12 で慶應大学の終了間際の逆転での勝利となりました。これはこれで番狂わせ的な結果でしたが、こうした試合結果に至った大きな要因は、慶應大学のディフェンスから試合を作る「炎のタックル」に因るものでした。

ディフェンス（防御）から作るラグビーと聞くと、防御でどうやって点を獲るの？と思いますよね。「タックル」は文字通りボールを持っているプレーヤーを両手、身体で止めるプレーです。ラグビーは、常にボールがゴールに向かって先頭にあるスポーツです。ボールはボールを持っているプレーヤーが倒れたら、後ろにいる味方にボールを渡し、そこから次のプレーに移ります。このタックルを数多くすることで、ボールの前進を阻む、というのがこの日の慶應の戦術だったようです。（兎に角、この試合の数々のタックルは見事でした!!）

良くラグビーの醍醐味は、パスやキックなど華やかな言葉に代表されることが多いですが、ラグビー通な人はやはりこの「タックル」を醍醐味に挙げる人も少なくはありません。

タックルは、非常に危険なプレーのように思われるかもしれません。が、けがをしない為に彼らは日々身体を鍛えます。そしてそのタックルを決めること、相手の行く手を阻むことで次の戦術につなぐなど重要な戦略の起点を築くプレーとなるのです。よく皆さんがテレビでも耳にする「ジャッカル（ボールを持って倒れた選手からボールを奪うプレー）」は、子どもたちもあこがれるプレーとしてよく試合中にする子が近年増えています。でもこのプレーもその前にタックルで相手を倒すことが出来ているから、そのボールを奪うチャンスが生まれている訳です。すなわち、この「タックルなくしてジャッカルなし」なのです。

子どもたちもいずれは高学年になり、身体も大きくなり、鍛えてこのタックルをバンバン決めるようになります。アタックだけではラグビーは試合に勝てません。チームの為、勝つ為にタックルを決めるようになります。でも、このタックルには心を決めて相手の腰・足に飛び込む勇気も必要です。いずれお子さんたちがタックルを決めることができるようになるでしょう。きれいなタックル、効果的なタックルが出来たわが子をいずれ誇る日、誉めてあげる日が来ることを思い描いてこれからの試合を観てあげてください。